



今月の主な目次

- 早めに暑熱対策をしてみませんか？
- ロールラップサイレージの現地状況
- アクレモ使用事例 (宮城編)
- 雌牛ジェニーとエルメンの会話
- 那須TMウェットの実例紹介 (現地ルポ)
(福島県給与事例)

時の話題

自給飼料の増産の必要性

3月、春、雪解け水をタップリ含み、早春の太陽の恵みをしっかりと受け止めた一粒一粒の土、先を争って元気に生育し始めた草地の若芽、いよいよ、農作業の始まりです。

今年の農作業が順調に進むこと、そして秋の実りが豊かであることを期待してのスタートです。

○消費者の見る目

遺伝子組換え作物、BSE、偽装表示、輸入野菜残留農薬、無登録農薬、等、今、生産物は「安全・安心」、中でも農産物と食品の生産・製造・商品には、更に「信頼」が求められ、生産する側は常に消費者は「どう見ているか」「どう見られているか」を抜きにしての商品生産はありえない、急速な環境の変化の時代です。これは見方を変えれば消費者が生産物の価値を正しく評価していただける、差別化のチャンスと捉えるべきではないでしょうか。

○豪州は史上最悪の干ばつ、北米も干ばつ

皆様もご存知の通り、豪州の記録的な干ばつは100年に一度とまで言われております。この影響での2002年産3月の生産量は2001年産2月との生産比較では下表の通りと発表されています。

小麦	大麦	マイロ	綿実	米	オーツヘイ
42%	44%	48%	39%	29%	50%

この干ばつは家畜の処分、これまでの輸出国が物によって輸入となり穀物相場の国際市場にも大きな影響をもたらしておりますし、一方の米国・カナダの西部地域の干ばつも、牧草の生産、小麦・トウモロコシ・大豆の生産量に不安の声と政府による対策が必要と報じられております。

この干ばつは、ここ数年続くとともに言われております。また、中国産稲ワラも輸出は再開されたものの不安定な状況下であり、輸入粗飼料の価格は直接的な要因とともに為替相場の変動や原油価格の上昇による海上運賃の影響も大きいことは周知の事実であります。

○国内の飼料生産状況は

飼料の需要量は国民の食生活の変化による畜産物の

消費拡大にともない、昭和40年代から昭和60年代に急速に増加したが、国内飼料自給率は逆に大きく低下している。

飼料作物作付面積も同様に畜産物の消費拡大にともなって、平成2年頃まで増加が続き、単位面積当たりの収量も草地開発、トウモロコシ優良品種普及、水田転作等により増加となりましたが、近年は若干の減少となっておりま。

○国内の粗飼料給与率の推移 (TDNベース)

大家畜経営の粗飼料給与率は下表の通り、乳量、乳質、肉質、飼養経営形態等の変化と労働力、輸入粗飼料の利便性から近年やや減少となっております。

(単位:%)	酪農経営			肉用牛	
	全国	北海道	都府県	繁殖経営	肉専肥育
昭和50年	49.2	76.0	37.7	74.5	21.5
昭和60年	49.7	65.5	41.7	69.1	18.6
平成12年	48.3	57.5	40.9	67.8	12.8

○自給粗飼料の増産

作付面積の拡大は期間借地も含め拡大は可能で、特に東北地域は水田を飼料基盤集積の組織化することが十分可能であり、また、稲作農家と畜産農家の連携・協力による生産組織も徐々に拡大しております。

○粗飼料生産コストの低減

個々の機械等の投資に見合う土地面積の確保と集積・団地化、生産性の高い作物の選択、労働配分を考慮した作物作付体系、その一方で過重労働の解消策として作業受託組織の導入による、生産作業の外部化もコスト低減を含めた重要な要素であります。

実際に北海道・九州地域で組織化が増加しており、是非、検討してみたいものです。

○消費者への信頼

消費者は今まで以上に農産物の生産環境に厳しい目でチェックしてくるでしょう。生産者も、牛も、農地も健康でなければ、本物の味、安全、安心、健康志向に貢献できません。牛が持つ草で乳・肉を生産する力を最大限に引き出し、家畜排せつ物も循環活用され良質粗飼料の給与された、消費者に見ていただける経営形態が「信頼」につながるものと確信しております。

当社も自社開発の優良な飼料作物種子と養牛用専門配合飼料工場の製品で、合わせて関連する資材を通じ、安全・安心・信頼の向上にお役に立つよう努力を続けてまいります。

(種苗部長 小林正勝)